

平成 2 9 年 1 月

第 2 回白山市総合教育会議会議録

白 山 市

平成28年度 第2回 白山市総合教育会議

日 時 平成29年1月11日（水）午後4時

場 所 白山市役所4階 402会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 会議事項

(1) 教育施策に係る意見交換について

①スクールソーシャルワーカー（SSW）配置事業について

②小学校外国語指導助手（ALT）配置事業について

(2) その他

4 閉 会

出席委員（6名）

白山市長	山 田 憲 昭
白山市教育長	松 井 毅
白山市教育長職務代理	橋 本 外 志
白山市教育委員	水 洞 満 子
白山市教育委員	喜 多 広 司
白山市教育委員	北 田 朋 幸
白山市教育委員	竹 内 千 恵 子

事務局出席職員

教育部長	松 田 辰 夫
教育総務課長	中 英 俊
学校教育課長	中 村 治 郎
生涯学習課長	徳 井 孝 一
文化財保護課長	高 橋 由 知
スポーツ課長	東 俊 昭
松任図書館長	中 村 久 昭
学校教育課管理主事	橋 本 康 信
教育総務課長補佐	山 田 純 一
教育総務課庶務係長	河 奥 裕 子

傍聴者 1名

開会 午後 4時00分

○教育総務課長 それでは、定刻になりましたので、これより平成28年度第2回白山市総合教育会議を開催いたします。

◎市長挨拶

○教育総務課長 開会にあたりまして、山田市長からご挨拶をお願いいたします。

○市長 本日は、第2回白山市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方には新年のお忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、平素から白山市の教育の充実、発展のために多大なご尽力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

はじめに、地域の熱意と大きな希望のもと、河内小学校の新校舎が完成し、この真新しい校舎で昨日から授業を開始したところです。地域の拠点施設として、皆様に末永く愛されることを願っているところであります。

なお、この河内小学校の建設をもちまして、市内小中学校すべての耐震化が完了いたしました。今後とも学校施設の計画的な整備に努めて参りたいと思っております。

さて、今日の会議は、前回に引き続き、教育施策について、意見交換をいたしたいと思っております。スクールソーシャルワーカー（以下、「SSW」とする。）については新規配置を、また小学校外国語指導助手（以下、「ALT」とする。）については、増員が課題となっております。笑顔で元気な子ども達が育つように、我々もまた皆様と一丸になって、白山市の未来を担う子ども達のために精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、委員の皆様には忌憚のないご意見などを賜りながら進めて行きたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○教育総務課長 ありがとうございます。これより会議事項に入りたいと思いますが、議事の進行につきましては、主宰者である市長をお願いしたいと存じます。それでは、市長よろしくをお願いいたします。

◎会議事項

○市長 それでは、早速、会議事項に入ります。

まず会議事項（１）教育施策に係る意見交換についてです。①SSW配置事業について、事務局から説明をいたします。

○中村学校教育課長 それでは、SSW配置事業について、説明をいたします。ここ数年、文部科学省が推奨しているチームとしての学校「チーム学校」において、スクールカウンセラーとともにSSWが非常に重要な役割として位置づけられています。児童生徒に関わる問題を、あるいは課題をこれまではほとんど学校の教職員が解決を図っていたわけですが、近年の問題の多様化、複雑化により学校だけでなく、専門的知識、技能を持った専門家を活用して課題解決を図ることが大切だと言われています。

そこでSSW配置事業についてですが、資料1をご覧ください。SSWとは、社会福祉士などの社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、問題を抱えている児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、解決に向けて支援する専門家のことです。白山市においても、不登校、暴力行為、いじめなどの問題行動は決して少なくはありません。そしてその要因が、家庭環境などに起因するものも数多くあります。その解決のため、SSWの必要性が学校現場からも要望が出てきております。そこで教育委員会としては、新規にSSW2名の配置を要望させていただいております。以上であります。

◎意見交換

○市長 今、説明のありました「SSW配置事業」につきまして、意見をお聞きしたいと思います。まず北田委員からご意見をお願いいたします。

○北田委員 確かに学校現場において、先生方が家庭訪問をしていますが、仕事の内容もハードでなかなか踏み込んで話をするのが難しい状況はたくさんございます。できればSSWが単独でしっかりと家庭に入っていただいて、DVであったり、ひとり親であったり、失業などの家庭内の問題にこと細かに対応できるような人がいないと、なかなか子どもが安心して学校に来られるという状況にならないということです。来年度からの第二次白山市総合計画の中でも、この要望に関しては重点目標の一つになっています。いろいろな近隣の市町を見ても、やはり白山市だけがなくて、他市町は既にSSWが

対応しているということで、ちょっと白山市が出遅れているような気もします。SSWの配置をしていただいて、子ども達が住み良い学校環境と家庭環境を作っていただきたいと思います。

○市長 ありがとうございます。次に喜多委員、お願いします。

○喜多委員 毎年学校訪問をさせていただいておりますが、その中で毎年回を重ねる度に、不登校やいじめが増加傾向にあると感じております。平成28年度の4件の事案については、石川県からSSWを派遣していただいて対処していると伺っております。ただ県のSSWを依頼するにあたっては、やはり申請等々の事務手続きが煩雑といいますか、クイックレスポンスという意味では若干遅れを取ってしまうこともあるのではないかと。特に複雑な家庭環境の子が増えている中で、教師だけではなかなか対応しきれないケースも増えてくる。また先生方自体が大変忙しい中で、保護者との関わりに時間を取られるということも先生方の負担になるのではないかと思います。

今ほど北田委員からも話がありましたが、平成29年度からの第二次白山市総合計画でも重点事項になっていることもありまして、SSWが自分の手元でフレキシブルに対応できる環境は、各学校への対応もスピーディにできるという良い方向に向かうのではないかと考えております。事務局案にあります小学校担当1名、中学校担当1名はスタートとしてよい配分かと思えます。ぜひ白山市全体が、このようなことに力を入れているということを保護者や地域に見せることでやはり教育力が上ってくるのではないかと考えます。ぜひ来年度からの配置事業を予算化して運営していただきたいと思えます。

○市長 ありがとうございます。次に橋本教育長職務代理者をお願いします。

○橋本教育長職務代理者 白山市総合教育会議及び教育大綱策定2年目であり、また「健康で笑顔あふれる元気都市」を将来像として策定した「第二次白山市総合計画」の具現化に向けたスタートの年でもあります。教育の分野でもその趣旨が少しでも実行に移されることを願って、2点述べたいと思えます。1点目は、学校現場が強く求めている専門スタッフの一つであるという点です。お2人の委員と重複する部分もありますが、学校訪問を通して授業を参観したり、校長先生との懇談で感じることは3つあります。1つ目は、発達障害児を含め特に支援を要する子どもの存在。2つ目には、複雑な家庭環境と深刻な貧困化が子どもに及ぼす影響。3つ目は、学校不適応児童生徒の存在と相談数の増加等の問題です。そうした状況の中で見られることは2つあります。今、改めて

この資料の表を見ますと、1つは、いじめ・暴力行為の件数、不登校児童生徒数の潜在的需要が漸次増加傾向にあり、深刻になる前に手を打つ体制を考えることが大事なことだと思います。2つ目は、現行の県教委からの派遣制度では、学校によって緊急かつ必要な場面に十分対応できないのではないかと感じます。市独自の配置ならそうした問題もクリアできるのではないかと思います。

以上の点から、一部児童生徒の複雑化、深刻化している家庭環境への働きかけを、学校に求めることは負担の限度を超えるものであり、教育行政の責任で対応すべきものと思います。不登校問題然り、子どもや保護者への対応は、なかなか即効薬が見つからない本市の大きな教育課題であります。今後、学校現場では悩みや問題を抱えている子ども達や保護者、家庭との隔たりの溝を埋め連携を図り、問題解決に向けて支援する専門家の存在は益々必要度を増すものと思います。大きな2点目は、1点目と関連しますが、加速度的に変化する社会に対応するために、行政としてどのような支援が学校にできるかという点です。未知の課題に取り組む時代に入り、「チーム学校」で全ての教職員やそれを助ける人達と一緒に学校を創る。現場を預かる学校や教職員はもとより、教育委員会自身がどのような新しい学校像を描くかも大切なことだと思います。中央教育審議会での答申の一部が資料に載っておりますが、今後はSSWをはじめ多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的協同的に諸課題の解決に取り組む体制が、学校と教職員に求められます。市教育センターに2名配属し、小中学校へ巡回指導するとあります。専門スタッフの配置は、各学校におけるチーム体制の支援、関係機関とのネットワークづくり、保護者・教職員への支援、教職員への研修活動の面でも大きな成果が期待できるものと思います。学校は、子どもの笑顔や歓声の似合う場所です。それは学校が子ども達のためにあるからです。また保護者や地域の人々も学校教育へ限りない信頼と期待を寄せています。このSSWの件については、第二次白山市総合計画の重点項目にも位置づけられています。不登校問題や交友関係、家庭環境の深刻さに一人悩む子ども達。保護者・家族の中には、誰にも言えぬ心の葛藤を抱えている人も少なくないと思われます。行政と学校が協力して、専門的立場から支援の手を差し伸べられるならば、1人2人ときっと明るい笑顔を取り戻すことができるでしょう。SSWの配置は、第二次白山市総合計画の重点項目の具現化の面から、また教育の分野で「笑顔あふれる元気都市」の施策として、ぜひ来年度予算の目玉の1つとしていただきますようお願いをい

たしまして、私の意見といたします。

○市長 ありがとうございます。最後に教育長お願いします。

○松井教育長 大体皆さんの言われたことと同じなのですが、今、子どもに関する問題は難しいです。ややこしいです。複雑・多様化していると思います。学校の先生というのは、本来は子ども達の指導、学力の向上であるとか、児童生徒と向き合うことが大事だろうと思いますが、その時間がだんだん少なくなっている。いろいろな問題のために少なくなっています。いじめ・不登校をはじめ、保護者対応とか特にモンスターペアレントの対応で時間が取られて、本来子どもと向き合っていかなければならないのに、そういう時間がだんだんと少なくなっている。さらにそのようなことで時間を取られて、多忙化に拍車がかかっている。本来の業務から、やはり外れてきているような気がいたします。そういった意味からでも、やはり福祉の専門性を持ったSSWが必要でないかと思えます。

昨年、NHKの番組を見ておりましたら、名古屋の学校ですが、SSW、スクールカウンセラー、そしていじめアドバイザーに臨床心理士、確か警察官もいたと思えますが、常にチームを作れる状況にあるわけです。いろいろな問題が出てきます。生徒指導の問題など、すぐにチームで検討会を開いて、どういうふうに対応をしていくか、それぞれ個々に応じた対応が常にすぐできる。いじめや不登校というのは、やはり芽が出始めたころにすぐに対応をしなければダメだと思います。そういった意味で、後になればなるほど後手に回れば回るほど、問題がややこしく難しくなるし、また費やすエネルギーも大きくなる。だから、小さい間に全部対応する。その時には、学校にそういう方がいるだけでも全然違うと思えます。私は、SSWからスクールカウンセラーから臨床心理士まで全部いれればいいと思えますが、今とりあえずはSSWから。これは国でも入れると言っているのですが、なかなか追いつかない。やはり自前でやっていくしかないという気がします。迅速な対応、何でもそうですが、早い対応のためにも、ぜひSSWがいるとよいと思えます。

○市長 ありがとうございます。自分も2年前の選挙の公約の1つに、学校への専門的な人の派遣を問題が起こってからではなくて、問題が起こらないためにすることが大事ではないかと言ってきた。家庭環境まで立ち入ることは、今の費用で求めるのは難しいかもしれない。外部の人が巡回して来ることで、学校で子ども達も落ち着きを取り戻す

とか、教育長が言うように芽を摘むことが大事だということからすれば、まずは巡回をして、何かあったら言ってくれという形でやっていくことが恐らく学校現場で効果が出るように思う。北田委員は、PTA役員をやっていて、その立場で学校へ行くと、「学校の雰囲気が変わる」ことを実感したという話を1度聞いたことがあるけれど、そういうふうに部外者が学校に顔を出すことは結構効果があるし、その中で相談ができるということになれば、効果が出てくるのではないかと考えています。教育長が言うように、2人で巡回活動をしながら、どんな問題があるのかを把握しながらやっていくのがよいと思うが、どうでしょうか。

○橋本教育長職務代理者 やはり予算の関係もありますから、何とか突破口でも切り開いていただければ、その実績を踏まえて次に続くのではないかと考えています。

○市長 巡回というかたちで、週何時間なのか。

○中村学校教育課長 1人につき1日、6時間を想定しています。

○市長 結構長いな。1日に2校くらい回れるのか。

○中村学校教育課長 午前、午後、1校ずつぐらいでどうかと考えています。

○市長 結構回れるな。そういう中で、家庭訪問をする場合には、その人と先生が一緒に行くとか、そんなやり方もあると思う。その方がやり易いと思うし、教職員以外の方が言い易い場合もあるだろう。

○橋本教育長職務代理者 SSWが一応配置されるようになった場合、現場の先生方もその専門の方にお任せとなってはダメですから、やはり従来通り、その新しいSSWと十分連携を取って、学校全体でもSSWが入ったことで効果が上がるような体制を作っていく必要があると思います。

○市長 ですから、SSWも全てを任されたではたまったものではない。県議会議員の時から、「問題があったら、警察を呼ぶことに躊躇するな」とよく言ってきた。その警察を呼ぶことが恥じではなくて、暴力沙汰が起きないことがもっと大事だと思う。そういう暴力沙汰があった時に、学校現場はすぐに隠そうとして躊躇することの方が良くない場合がある。だから教育委員会の皆さん方も警察を呼んだことを怒らないで、暴力沙汰が起こらないためにはどうすべきかを考えてほしいと思います。

○松井教育長 最近、文部科学省も変わってきたと思うのは、特にいじめの関係ですけども、これを積極的に認めろと言います。積極的に認知すると言うことは、学校の先

生方が見ているのだから、積極的にいじめを認知しなさいと言っているわけです。どうしても教育委員会や学校の体質は、なるべく隠そうとか出さないでおこうという体質が昔からあって、その辺はもっと出してもいいんだよと言っています。要するに自分の学校からいじめがこんなにたくさんあるということが、今までは恥やと、学校の先生方は何を指導しているのだという意味で恥やと思っていたけれど、今はもう積極的に出せというふうに変わってきているわけです。

○市長 何か問題でもあったら、学校は把握していたか、していなかったのかを絶対に問われる。もし把握していたのなら、なぜ解決しなかったのかと言われるから、知らなかったと言ったり、知らないとなれば、大問題となる。そういう意味では、いじめは起こるものだとしたことと、起ころうとした時にどう対応するかということだ。

○橋本教育長職務代理者 学校では、毎月いじめを含め学校生活全般に関するアンケートを実施して、児童生徒の状況をつぶさに分析しています。しかし、先生方や専門的なスタッフが子どもの言動や行動を見て、ちょっとおかしいなと思った場合などは、普段のアンケート項目だけではなく、より具体的な問いかけをして、いじめであるかないかを判断していく必要があるように思います。

○市長 子どもは、いじめやと思ってしていない場合がある。いじめようと思っていなくても、それはいじめやということを書いてやらないといけない場合がある。おもしろおかしくして、可愛がっているという気持ちでいる場合がある。その時には、「今やっていることは、いじめやぞ」と言ってやることも大事なことである。全然意識せずに、いじめていることがある。

○竹内委員 学校の立場で思うことは、隠していると取られている面はあると思いますが、確かに学校の方もオープンにしたら、その結果学校ではどんなふうに事が展開していくかという経験がなかったために、先ほど市長がおっしゃったように「何しとったんだ」というようなところにくるのかなと思います。やっぱりこれをオープンにしていたら、どうなるのだろうという見通しが立たないまま、どうしようかどうしようかと思っている間に時間が経ったのだろうと思います。ここまで来ると、社会的にこういう事例が起きたら、こうなんだということを皆さんが認識していただいて、県あるいは市の教育委員会、県知事あるいは市長がサポートするという体制があれば、安心して学校はきちっと対応ができるのではなかとと思います。そういうふうに少しずつ社会が変わってきてい

るのかと思います。今まではあまりにも学校にすべてお任せで、これを公表したらどうなるのだろうという不安や見通しが立たなかったというのがあるのではないかと思います。

○市長 本当に何が起こるのかわからない。性善説を出すと、分からずにやっているのではないと言われるが、ちょっと注意してやればいいのか。そこから始めた方が、いいのではないかと思う。

○竹内委員 教育は、性善説に立たないと、子ども達は育てられないと思います。

○市長 だから、そういう意味では、「これはダメだぞ」とか言うことができなければ、部外者に言ってもらおうとか、こういうふう子どもが納得できるようにしてやる。そのためにも、SSWを活用して、先生も一緒になってその中に入っていくことが大事だ。先生も一緒にないと意味がない。

○北田委員 スクールカウンセラーも頻繁に利用されており、保護者達も学校で相談する時間を取り合いをしているような状況なので、SSWが入っていただけるとさらに多くの方の対応ができると思うので、予算付けをしていただきたいと思います。

○市長 人数が少ないので、先生の経験者と警察官の経験者などの違う専門の人がいてもいいと思う。

○橋本教育長職務代理者 今、スクールカウンセラーの話もありましたが、現在各学校では一生懸命に頑張っておられます。新たにSSWが入って巡回をすれば、その方とのネットワークも広がり、いろいろな情報も分かって、また対応も二重三重にできるのではないかと思います。

○市長 その辺りは知恵を出し合い、部外者を活用していればいいのかと思います。この問題はこれで終わります。

次に、②ALT配置事業について、事務局から説明をいたします。

○中村学校教育課長 ALT配置事業について、ご説明いたします。先月の12月に平成32年度から全面実施に向けての次期学習指導要領改訂の答申が文部科学省に出されました。その中で、小学校5、6年生における英語の教科化、そして3、4年生における外国語活動について、平成32年度の改訂を待たず、平成30年度より先行実施されることになりました。そこで現在白山市の8名いるALTを2名増員していただけないかという要望であります。もし配置していただけたならば、次年度は小学校3、4年生に

も外国語活動を実施し、より早い段階から英語に親しむ児童を育てていきたいと考えております。以上です。

○市長 今、ご説明のありました「ALT配置事業」につきまして、ご意見をお聞きしたいと思います。まず竹内委員からご意見をお願いいたします。

○竹内委員 まず、児童・生徒の立場から申し上げますと、白山市で教育を受けた子たち、小学生、中学生は、最終的には高校に進んで行きます。全県一区ということになって、いろいろな地域から集まって来るので、ぜひ白山市出身の子ども達には十分な教育をきちっとして、他の市町の生徒達と一緒に勉強をさせてやりたいと思います。そう思った時に例えば金沢市だと、10年ほど前から英語特区になりまして、早い段階から教育をしております。ALTも充実しているやに思います。私は、金沢市の中学校の授業参観をさせていただきましたが、研究も進んでいて自前の教材も使っています。そういうところから行く生徒達と高校になって机を並べるわけですから、やはり本市もきちっと小さい頃から親しませてやるべきではないかと思えます。それから保護者の立場から申し上げれば、これが文科省の方から新聞報道で発表された時に、非常に不安があつて、自分たちの子どもが行った時に、英語をしておかなければならないのではないかということで、かなりの若い保護者達が塾とか通信教育とかの英語教育に関心を見せているということもあります。ですから、そういう保護者の方達に、白山市はきちっと対応していますよという姿勢を見せるのは大事なことではないかと思えます。それから教員につきましては、まだ文科省の方は、誰が教えるのかをはっきりと言っていません。要するに英語の専科の人数を入れるのかという話を聞いてはないですよ。もしするのであれば、もう動きがあつてもいいと思えますが、そういう動きがないところを見ると、今の教員の中で、自前で小学校の先生方も英語を教科として教える、あるいは活動をしなくてはならないとなると、先生方の負担が大きくなるのではないかと思えます。若い先生は、少し前まで大学で英語も習っていたから抵抗はないかもしれませんが、特にベテランの先生が今から英語を教えましょうとなると、一緒にやっていただくALTが絶対に必要ではないかと考えます。学校教育の先生方の精神的な負担を減らすという意味で、やはりALTは多ければ多いほどいいのではないかと思えます。これに付随して、恐らくティームティーチングで教えるということになりますと、会議や教材研究をする機会が増えてくれば、それが英語だけでなく、いろいろな教育活動に影響していくのではないか

と思いますので、白山市の教育が良くなるのではないかと思います。それから学校現場で組織として考えた場合、ベテランの先生が高学年の教科の英語を教えるのを躊躇すると、若い先生が高学年を教えたり、低学年・中学年をベテランの先生が受け持つなど人事的な組織の上でも非常に難しいものになるのではないかと思いますので、できればきちっとした対応をすることで安心して誰でも教えられますという対応をしていく。それから他の市町には負けないような教育活動を行っていくということから、事務局は今のところ謙虚にALTを2人の増員ということですが、予算のこともありますが、きちっとした対応をしていただきたいと思います。私は、いろいろな小学校、中学校を見学させていただいて、レンガ造りで、木をたくさん使われていて、非常に誇るべき教育環境ではないかと思います。この環境を活かして、中身も充実した教育活動が行われているということをやはりアピールしていくべきではないかと思います。それは図書館司書の全校配置でアピールされているわけですが、これからは英語教育あるいは情報教育あるいは体育系をきちっと充実したものにして、校舎と一緒に本市のアピールをしていくことで、市の活性化にもつながるのではないかと思いますので、予算獲得は大変でしょうけどもぜひ頑張ってください、市としての教育に対するスタンスを見せたいなと思います。

○市長 ありがとうございます。次に水洞委員、お願いします。

○水洞委員 話は違うのですが、昨年12月18日に河内小学校の新しい校舎の見学会があり、校長先生をはじめ先生方も子ども達も地域の方々もたくさん見学にいらしていて、本当に喜んでいているのを見られて良かったと思いました。校舎は大変に立派なので、次は人かなと思います。私は学校訪問で、小学校の英語の授業を見るのが大変楽しみです。JETプログラムには、賛否両論があるみたいですが、私がいくつか見た市内小学校の英語授業のALTの方は、すごく熱心な方が多いと思います。まだ教科になっていないからかもしれませんが、子ども達が英語の授業だと生き生きしてすごく楽しんでいるのが印象的です。ALTの中には、すごくすばらしい授業をされる方がいて、日本人の先生もこの授業を見て勉強をすればいいのではないと思うくらいです。ALTの方が、きちんと授業をされているのは、白山市教育委員会の担当の方がすごくきちんと関わって指導をされているのではないかと伺えます。すごくまじめな感じがします。今は5、6年生だけなのかと思うのですが、いよいよ3、4年生も英語の授業が始まる

らしく、来年度は先行実施されるのでしょうか。そのためにもALTを増やしたらいいと思います。個人差や学校差があると思うのですが、子ども達への英語の授業もそうなのですが、ALTの方が増えることによって、小学校、中学校の先生方の英語力の向上にもつながるのかと思います。学校によっては、先生方が英語を学ぶ機会を作っている学校もあると思いますし、若い先生方の中には自分から積極的にALTの方とコミュニケーションを取っている方もいるのではないかと思います。そういう中で、英語力もそうなのですが、国際交流の活発化にもなるのかなと思います。自分自身は昔の日本人なので、なかなか外国人に近づいてはいけないのですが、白山市という地域がら、学校の中に英語のネイティブな国の出身の方がいることで、積極的にどんどん交流されてほしいと思います。噂ばなしかもしれませんが、県立錦丘中学校では、家庭の教育力もあるのでしょうか、白山市の子どもが小学校を卒業して、県立中学に進学をした時に、英語力に差がある場合もあるらしいと聞いたことがあります。家庭の教育力の差なのかもしれませんが、竹内委員もおっしゃっていたとおり、「白山市の小学校、中学校を出たら、英語がすごいよ」となっていったらいいと思います。ただ金沢市の取り組みには、やはり光もあれば影もあって、早期に英語が大嫌いになるという、小学校の時に英語が嫌いになるような子もいるらしいので、本当に小学校の英語の取り組みには、英語嫌いにならないように気を付けつつ、良いALTの人が増えていってほしいと思いますし、白山市のALTの方は、きちんとされているのかと思います。

○市長 ありがとうございます。次に橋本教育長職務代理者、お願いします。

○橋本教育長職務代理者 お2人の委員の方とご意見が重複するところがあるかもしれませんが、1点目は、学習指導要領の改訂に伴い、小学校の中学年で外国語活動、高学年で外国語（英語の教科化）先行実施に備えるために、必要な要望ということです。現行制度では、29年度から市独自で先行実施の場合、ALTが2名不足すると聞いています。市独自で2名増員配置の利点として幾つか挙げてありますが、私は特に多くの教員が、ALTとティーム・ティーチングをしながら、英語を用いたコミュニケーションの授業に慣れていることが大事な点であろうと思います。「学び続ける者こそ、教える権利あり」。初めて英語の指導に当たる先生に負担にならない範囲で、ALTの指導から学校全体が学ぶという姿勢を醸成するということは、子ども達にも良い影響を与えるものと思います。学校訪問の中でも、教師も子どもも共に学ぶというひと時や雰囲気づく

りが、学校にとっても大切なことだと思います。29年度より実施すれば、30年度から移行措置にもスムーズに対応できることとなります。本市の子ども達に最善・最良の教育環境を提供していくことは、行政の果たすべき責務であろうと思います。

2点目は、2020年以降、日本の英語教育が大きく変わる流れの中、それに遅れることなく対応していくべきという点です。1つ目と関連しますが、大きな変化は1つ目として、学習指導要領の改訂。2つ目は、英語4技能テストの活用。3つ目は、小学校の英語教育の充実。4つ目は、大学教育の国際化といった複合的な要素が繋がっていると思います。また国は校種ごとに、年次ごとに「何々ができる」という指標形式の目標を学習指導要領に盛り込むことは、大きな影響力を持つと思います。2020年度から大学入試も変わることで、今や予備校・塾での英語学習も様変わりしますと聞きます。中学年は外国語活動が前倒しとなります。市内83学級で年間10時間程度実施の予定とのことです。以上の点から、英語に親しむ時間を増やすとの要望は、今の社会の変化を見据えたものであり、ひいては本市の子ども達の英語力向上になるものと思います。他市の状況も載っていますが、今後どの市もALT及び地域講師を増員していくことと思います。本市が先頭を走る気概で、ALT配置による専門的な英語教育環境の整備を期待するものであります。学校教育の場では、子ども達と教師の「元気」が不可欠です。ALTとのコミュニケーションを通して、中学年から外国語に親しみ学ぶことで、きっと「自信」を深めることでしょう。学びの過程で培った自信は、元気に繋がります。教育はある意味、子ども達が将来前を向いて生きる自信に繋がる学びの思い出をたくさん体験させることでもあります。中学年の外国語活動にALT2名の配置を望むと共に、教育の分野で「元気あふれる元気都市」施策として、ぜひ来年度予算の目玉の2つ目にさせていただくようお願いいたしまして、私の意見とします。

○市長 ありがとうございます。最後に教育長、お願いします。

○松井教育長 最初に、これから皆さんと議論・協議をしないといけないことから申し上げます。英語の教科化ということになりますと、5、6年生は今の授業数からいったら1コマ足りない。文科省辺りは補充授業と言っているわけです。補充授業というのは、15分の授業を3回やって1コマ。そういうふうな言い方をしていますが、果たしてそれで子どもに力が付くのかどうか非常に疑問です。土曜日に授業をやるというのならばできるのですが、文科省は土曜日の授業は全然認める予定はないそうです。だから、

補充授業であるとかかなり無理がでてくる。ほかの教科にも無理が出てくるような気がいたします。これが今後の課題でありまして、皆さんとまた議論していきたいと思っております。本論ですけれども、今ほどいろいろとお話ありがとうございました。竹内委員からは、英語を誰が教えるのか。専科教員がおれば専科で教えればいいが、現実小学校の場合は、いまだにそういう専科の先生はいただけそうにないです。2015年度に全国小学校校長会が調査した数字があるわけですが、やっぱり小学校の校長先生は、6割方専科の先生が必要と言っている。けれどももう一方では、専科ではなくて小学校の場合は、担任制ですから担任の先生にALTを付けてティームティーチングをやったらどうかとの意見も3割ほどあるということです。それで、専科が無理なら、ALTを活用したティームティーチングを中心とした指導かと思っています。そういう形で、どうしてもALTは必要だと思います。英語というのは、やはり「読む、書く、聞く、話す」の4つの技能があると思いますが、小学校の段階では「読む」とか「書く」というよりは、「聞く、話す」、コミュニケーション能力を付けることが大事だろうと思います。やはり「聞く」ということは、日本語英語を聞いていても話にならないわけで、やはり生きた英語、生の英語を聞くことが大事だろうと思いますし、その時にはALTかという気がします。それで実際に予算要求は2人ですけれども、何年か前に必要数を出した時には、今の8人ではなくて、倍ぐらいの人数のALTが必要となりました。なかなかその予算が付かないので、今年は取りあえず2人とありますけれども、やはり生きた英語を子ども達が聞いて、そして会話をする、コミュニケーション能力を付けることが、先ず小学校の段階では大事ではないかと思って、予算をお願いしたいということです。

○市長 英語は世界共通語ですから、みんながやろうというのはわかりますが、日本の教育が悪いのか、私は全然英語がしゃべれません。そういった中で、小学校で英語をしていく時に、仮に教え方の差があるとすると、ALTで楽しくやっているけれども、そこで嫌いになったら、水洞委員が言っているとおり、いざ中学校へ行って英語が嫌いとなると困る。5、6年が教科化になるとすると、きちっとしたものを教えてほしいということもある。その時に何かうまく入り込んでいかなかったら、中学へ行って「もう英語が嫌いや」となってしまったら、何をやっているのかとなる。その教科書というか、そんなことを誰がするのかということ。金沢は、小学5、6年生に英語を教えるという意味で、教科書を持っているのか。

○中村学校教育課 金沢市は3年生からやっています。金沢市独自の副教材を作成し、使用しています。

○市長 そういうものを使ってやっておかないと、あまりに自由にやらせていた場合には、中学へ行った時にもうダメやとなったら、逆にやらない方が良かった場合もあるかもしれない。そういうところが一番の課題だろうし、土曜授業をそろそろ復活してもいいのではないかと思うこともある。学校で給食を食べていると、時間がなく、ぎゅうぎゅう詰めで行っている。土曜日が良い悪いの問題はあるけれど、1日の授業時間のなさ、これは子どもにとっても厳しいのではないか。昼休みもないくらいではないか。だからその問題を抜きにして、平日の時間数を増やしてやるというのも、教育長の言うようにその通りだと思う。そこを言わないで、あれやれ、これやれでは混乱する。そのところが本当の意味で、いいことをやるということと時間の割り当てをどうするのかを考えておかないと中途半端に終わる気がする。まだ文科省も副読本というものを提示はしていないのか。

○中村学校教育課長 副読本はありますが、教科の教科書は、まだ提示されていません。

○市長 そうなってくると、その辺りもどうなのかとなる。

○橋本教育長職務代理者 これから文科省が具体的な作業を進めていくものと思います。注視していきたいです。

○竹内委員 学校行事とか授業というのは、スクラップアンドビルドしていかないといけない。新規のものを入れるのは、みんなの理念で悪いことではないですが、何を引き算するかが非常に難しいことだと思います。だからそれは慎重にしなければならないし、そこに本市の特徴が出せたらいいなという感じはします。

○市長 教育長が議会でも言っているのは、新しいものを入れたら何かをなくすというのは、言葉では簡単だが、特色を残して何をなくすのかが一番の問題である。そういった面で、どこかで何を止めるのかも含めて考えておかないといけない。何でも入れていくと今度は子どもが消化不良になっていく。英語に親しむということは大事なことだ。その親しみ方によって、今後はどうつながっていくのか。金沢高専が尾口に、1学年90人で、1年生、2年生を全寮制、オール英語で授業をして、3年生はニュージーランドへ留学して、4年生、5年生は野々市市の校舎でオール英語の授業をする。そんな時代

である。その次には、大学もオール英語でしたいということで、高専からやることになっている。確かに英語は、なんだかんだ言っても大事なことだ。

○橋本教育長職務代理者　そういう面からすれば、私たちの時代はともかく、これから小学校に入ってくる子ども達は、生涯で一番長く英語の学習をする年代になっていきます。また将来的には、1、2年生にも英語が入ってくるのが予想できます。国際化、グローバル化の時代の流れですから、それに少しでも対応していける体制を考えていかなければならないという気がします。

○市長　国際交流事業で子ども達がボストン市や中国などいろいろ行っていますが、行って帰ってくると「自信が付いたような気がする」というのを聞くと、子どもは対応力があると思う。学習指導要領が、あいまいな中で進むのも怖いと思っている。恐らく学校現場が混乱する場所があるのではないかと。だから例えば、平成29年度から導入するとなれば、すぐとはいかないから2学期からとなるならば、その間にどう準備をするのかとか、学校も対応の問題も出てくる。そこが中途半端では良くないので、しっかりと学校と連携が取れる形でやってほしい。英語嫌いになってしまうことにつながっては後悔すると思う。新年度2学期から導入することをしっかりとわきまえた中で、校長会でも開いて連携することが大事だと思う。新しい事業だから目玉だからという問題とは、ちょっと違うような気もする。

○喜多委員　何でも吸収しやすい年ごろに、そういうことを与えてやることは大事なことだと思います。

○北田委員　例えば3、4年生で、年間に10時間となると、リラックスできないようなタイミングで取れるような気がする。しかも最初に英語のいい発音を聞かないと効果がないと思う。その辺が大事で、32年に確実に学習指導要領の改訂が始まるので、スタートを32年にするよりも先に3、4年前にスタートしておいて、32年に加速のついた状態で行けるのがよいでしょうし、早めに手がけた方がALTのやり方もいろいろあると思うので、ALTの皆さんで話し合っていて、本当に子どもが興味を持てる英語の授業を構築していくための良い時間となるように、3年間があるのかなと思うので、なるべく早いスタートを切れればと思います。

○市長　くどいようだけど、ALTを入れることが目的ではなくて、内容をしっかりとやらないと混乱をするだろうと思う。

他に、何かございませんか。

○橋本教育長職務代理人 ぜひ、よろしくお願いします。

○市長 それでは、会議事項（２）その他について、何かありますか。

○中教育総務課長 ありません。

○市長 これで第２回白山市総合教育会議を閉じさせていただきます。皆さん、どうもありがとうございました。

閉会 午後５時５分